



2011.1.16 pm8:00.

獣害対策視察

一月二十九日、滋賀県大津市仰木の農家十九名が千枚田を訪れた。仰木の棚田は琵琶湖が一望できる景観、生態系に恵まれた馬蹄型の田んぼで全国に広く知られている。視察内容は、イノシシ、シカなどの獣害対策が主目的で、同じ悩みを持つ百姓にとっては逆に教えられることが大きかった。



当方の千枚田におけるイノシシ対策は棚田全域を電気柵で張りまわした事で防除できたが、今年は数

カ所で被害がでた。等々の説明に仰木地区もほぼ同様な対策を講じているが被害は軽減しない。電気柵も耕作地全域を張り回し設備も農電を利用、終日通電、電圧は安定しているが耕地面積が大きく、雑草などのアース対策がネックである。また、シカの来遊が大きく電気柵も高さ四メートルまで張り回しているが被害は大きく、シカが二回侵入すれば、米の収穫食べてしまう)はできない状況にある。

両者の対話における知見

- ①イノシシは無茶苦茶利口である。捕獲努力以外に対策はない。(舜)
- ②漏電対策の徹底(仰木)
- ③バッテリーを頻繁にチェック、また、収穫後の電気柵は速やかに撤去すること(学習能力が大きい)に留意している。シカの被害は今のところ大きくないが、今後が心配の種である。等々(舜)



馬蹄型の棚田  
里山物語で広く知られる

## 国際交流

二月五日、FFA(アメリカ農業クラブ)学生役員六名、先生三人、通訳一名が四谷の千枚田を訪れた。

訪れた経緯は、新城高校が愛知県農業クラブ事務局校を努め、アメリカ国農業クラブと国際交流を重ねていることと、同校農業クラブ(二十五名)が生物多様性に富んだ千枚田を実習田として育農を実践していることから自然、景観は豊かであるが、厳しい条件の棚田の保全管理の実態を国際交流の場として紹介した。耕地の広いアメリカの学生は急傾斜の棚田に圧倒、保全管理に費やす耕作者に感銘の念を表した。

情報提供 原田史樹(新城高校三年)

## 連谷地区の変遷(戦後編)

連谷地区の歴史は縄文時代に遡り、幾多の変遷を繰り返して現在にいたっている。この項では戦後の連谷地域を中心にした変遷をみた。



昭和三十年代後半

邦 暦	項 目	邦 暦	項 目
昭和 22 年	国民学校が小学校と改称	昭和 40 年	四谷・連合明老クラブ発足
	海老中学校連谷文教場開校	昭和 41 年	寒狭川が豊川となる
	農協連谷出張所設置(真菰)	昭和 43 年	田口線廃止(9/30)
昭和 23 年	同上 廃止 本校に統合	昭和 44 年	稲目トンネルバス専用路線となる
昭和 24 年	田口線滝上停留場開設		普通車 182 台、軽四 50 台、オートバイ 249 台
昭和 27 年	連谷小増築、竣工	昭和 46 年	減反政策施行 1296 枚が急激に減少
昭和 28 年	連谷小学有林購入(23a)		仏坂トンネル開通(工事開始から 21 年)
昭和 29 年	海老中 3 年 オート三輪教習		棚山～鞍掛山 東海自然歩道開通
昭和 30 年	方瀬 6 戸焼失	昭和 49 年	七夕豪雨(7/7) 3 日で 760mm 記録(舜)
	連谷小完全給食開始	昭和 50 年	電話ダイヤル自動化される
昭和 31 年	海老の南北戦争始まる(町村合併問題)	昭和 54 年	稲目トンネル開通 一般路線となる
	鳳来町となり「大字」を削る		連谷小プール完成
かしゃげ峠に「山崩遭難塔」建立	町道大林線完成 合戸川河川改修完成		
昭和 32 年	棚山キャンプ村山開き	昭和 56 年	連谷会館開設
昭和 33 年	自転車荷車税廃止軽自動車税となる	昭和 57 年	連谷小新校舎完成
	宇連ダム完成「鳳来湖」と命名	昭和 60 年	連谷小体育館完成
昭和 34 年	竹桑田吊り橋が永久橋になる	平成 6 年	高畑林道全線開通
	伊勢湾台風襲来(9/26)	平成 9 年	鞍掛山麓千枚田保存会設立
昭和 35 年	有線放送開始	平成 15 年	千枚田作業道・ふれあい広場等完成
昭和 36 年	連谷小増改築(学区民協力)	平成 17 年	全国棚田サミット開催
昭和 38 年	普通車免許取得が増える		合併で新城市となる(10/1)鳳来消、作手残
昭和 39 年	県水産試験場鳳来養魚場開設	平成 22 年	田園自然再生コンクール大臣賞受賞
昭和 40 年	木材搬出「木馬」から架線集材に変わる		千枚田 県道下電柱撤去・迂回(中電・NTT)
	連谷小 複式学級となる。校歌発表		COP10 SATOYAMA 会場となり世界各国視察
	台風 24 号田口線被害大廃線の契機となる	平成 23 年	連谷小児童数 9 名、新学期より 5 名になる

## げなげな嘸

あのやああ、天王橋向きの田んぼの水ざああ 不動様の水ぞお使つとるのを知つとるかん…そんなこたあないずらあ「おちやあ(落合)」の水を使つとるだに…あんだ、なによお こいとるだん、あすこは貧乏山ちゅって雨がふりやあ水があるが、三日もせりやあ無くなつちやうじやんかん。そいだむんで、村の衆が集まつてのん、何とか田んぼを作らまいかんちゅって不動様から五百メートルもの井溝を作つただぞん。わしやあ知つとるが、石組でのん、さちつと作つとつて水が漏らん、そりああ大したもんだつただぞん。…そりやあ知らなんだが、いつ頃の話だん…ふれあい広場に入る前の上紙屋の田んぼまで井溝を引いたのが百年前の明治四十三年でのん、その、六年前の山津波(明治三十七年)の被害は無かつたそんだがやあ、あの、立派な石積みの田んぼは山津波の後、古宿から上の田んぼを積んだ九六畝サが積んだだけだぞん…そお言われりやあ立派な石積みの田んぼだのん。

**速報** 9日、今年最初の雨でヤマアカガエルが産卵した！自然は毎年、狂い無くやつてくる。感謝

行 平成二十三年二月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
文 責 小山舜二